

大学名 お茶の水女子大学

第74号 特集タイトル
「未来社会に向けた教員養成」

表題 子どもたちの健やかな未来を支える栄養教諭の養成

栄養教諭について

2005年度、学校における食育の推進の中核的な役割として、栄養教諭の養成が開始された。2023年4月現在、全国179の大学で栄養教諭を養成しているが、このうち、国立大学は、本学を含む3校のみである。

栄養教諭は、食に関する専門性と教育に関する資質の両方を併せ持つ教員免許であり、管理栄養士または栄養士の基礎資格を持っていることが義務付けられている(図1)。よって、管理栄養士または栄養士養成施設でなければ、栄養教諭の養成ができない。栄養教諭は、学校給食の管理に加え、授業や個別指導を通して、食に関する指導を行うことが期待されている。

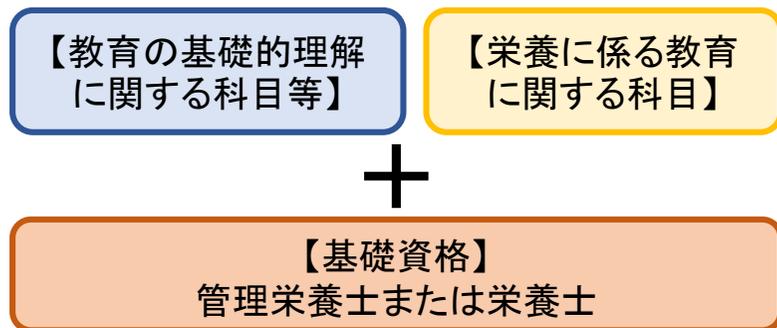


図1 栄養教諭養成の概要

- ※二種免許状: 栄養士養成施設を卒業した栄養士+14単位
- ※一種免許状: 管理栄養士養成施設を卒業した管理栄養士・栄養士+22単位
- ※専修免許状: 一種免許状授与+24単位

本学独自の取組について

栄養教諭一種免許の場合、基礎資格に加え、22単位が必要であるが、本学には、他の教員免許取得の科目がそろっていることから、より深い教育的資質の習得を目指し、30単位を取得要件としている。

また、教育実習にも力を入れている。栄養教諭養成に必要な教育実習(栄養教育実習)は、事前・事後指導を含み2単位であることから、通常実習期間は1週間と短い。しかし、本学では、附属小学校が同一キャンパスにあるという特色を活かし、附属小学校の公開研究会参加や他の教育実習生の授業参観に加え、教育実習の前週には、事前指導の一環としての事前参観を設け、学生が小学校に行く機会を多く設定している。

栄養教諭養成をはじめ、約20年が経った。多くの卒業生を輩出し、子どもたちの健やかな成長と健康を支える人材として、全国で活躍している。

